

5年 わたしの地図活用

雪害を防ぐ

北海道 旭川市立東町小学校 田所 輝史

1 身近な自然災害「雪害」



これは、2013年1月3日の朝、私の自宅前に一晩で積もった雪の写真である。内側から玄関の扉が開かず、無理やり開けて外に出て見えた光景に驚いて思わず写したものだ。

北海道は、豪雪地帯対策特別措置法にもとづき指定された「豪雪地帯」であり、そのうち半数近くの市町村が「特別豪雪地帯」である。旭川市は豪雪地帯に分類されている。1年のうち約半年、雪とつき合っていかなければならない地域である。

そこで、5年生で学習する小単元「自然災害を防ぐ」でおもに取りあげられている自然災害を「雪害」におきかえてみた。雪害は、学習指導要領解説に示される自然災害の一例である。児童が身近な生活と資料を手がかりにして問題意識をもつこと、地図帳とほかの資料とを併用して問題を解決することをテーマに、学習活動を構成する。

2 問題発見から学習問題設定へ

本単元の学習問題は、「自然災害からわたしたちの生活を守るために、どんな取り組みがなされているか。」である。児童にとって、身近な自然災害が雪害であることを認識するために、まず『楽しく学ぶ小学生の地図帳』(以下、地図帳)の資

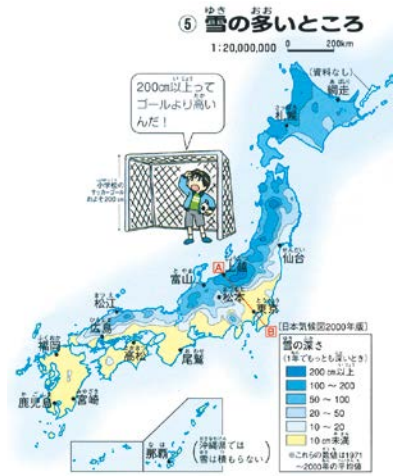


図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.66 ⑤

料を用いる。

ここで押さえておきたいのは、まずは日本全国での分布である。p.66⑤「雪の多いところ」(図1)で本州の日本海側と北海道が雪の多いところであることを確認する。⑥「A-B間(⑤図)の断面と冬の季節風-模式図-」でそのメカニズムを知る。⑦「気温と降水量」では、札幌と上越の降水量が冬季に多いことを確認できる。そして、自分たちの住む旭川市の位置を確認する。

旭川市を含む雪の多いところでは、冬季の除排雪が日常生活で欠かせない。⑤にある「雪の深さ(1年でもっとも深いとき)」と生活経験から、積雪の多い時期のことを想起できても、雪害という言葉とは簡単に結びつかない。自然災害としての雪害につなげるには、地図帳以外の資料も必要になってくる。

そこで、次の資料(図2)を併用する。全国的

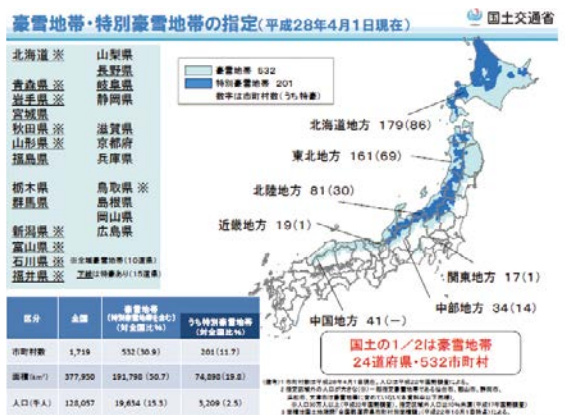


図2 「豪雪地帯及び特別豪雪地帯の指定について(概要)」(国土交通省)(<http://www.mlit.go.jp/common/001085702.pdf>)

(単位:人、棟)

年月	災害名	道内での被害状況等
平成16(2004)年1月	北見地方の豪雪	オホーツク海側での猛吹雪、北見地方では記録的な大雪、死者1、重傷者2、軽傷者7
平成17(2005)年12月～平成18(2006)年2月	平成18年豪雪	日本海側での記録的な大雪、死者18、負傷者402、住家全壊1
平成23(2011)年1月	雪害(空知地方)	死者3、重傷者18、軽傷者35、住家一部損壊25
平成25(2013)年3月	暴風雪	猛吹雪によりオホーツク、根室管内を中心に被害、死者9、負傷者13、住家半壊2

掲載基準:平成以降、死者が発生した雪害および気象庁ホームページ(災害をもたらした気象事例)掲載の雪害  
※被害概要は北海道のとりまとめによる。

←図3、↓図5ともに、北海道『ほっかいどうの防災教育知識編』より抜粋

にみると、地図帳の資料とほぼ同じ場所が豪雪地帯に指定されていることがわかる。また、指定を受けているのは、雪害を防ぐ必要があり、国が対策を実施するためであることを伝える。

もう一つは、北海道で起きた雪害の資料(図3)である。雪害のようすを伝える当時の新聞記事なども活用し、問題意識を醸成したい。

### 3 問題解決のために

雪害の中でも、児童が想起しやすいものとして、積雪などによる交通障害がある。それを防止する取り組みの一つが、地図帳p.49③アの資料(図4)である。

札幌市にあるエネルギーセンターを運営するのは一般の企業であるが、暖房・給湯用だけではなく、融雪用の温水が供給されていることもあって、市民の生活を支える取り組みの一端を担っている。



図4 『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.49 ③ア

これと併用したいのが、北海道や旭川市が作成しているパンフレットなどである。道や市などの自治体が、雪害に対応したり、雪害を防止したりするための取り組みをわかりやすくまとめており、自助・共助へのアプローチもあって、自治体と地域住民の協力を調べるができる資料(図5)である。また、『ほっかいどうの防災教育』には、雪害以外の自然災害についても掲載されている。

#### 【参考資料】

- ・国土交通省「豪雪地帯及び特別豪雪地帯の指定について(概要)」
- ・旭川市「旭川市雪対策基本計画」

## 1 暴風雪への備え



(北海道開発局)

## 4 基礎的資料“地図帳”と…

本冊子2011年度2学期号で、地図帳はすぐれた基礎的資料であることを述べた。本単元での活用を考えたとき、地図に加えて統計や写真、パンフレットや新聞記事などを活用することによって、知識・技能の習得、問題発見・解決、意思決定などの資質・能力を高めることにつながるのだと改めて感じた。そのためには、児童の学習を支えるための資料・情報について教師が収集・蓄積すること、また、その扱い方について、普通からくふうすることが大切である。

一口に雪害といっても、積雪、吹雪、なだれなどが原因となって起こる電力や通信の障害、家屋の倒壊、交通事故や屋根の雪おろしの際の転落事故などがあげられる。一方で、雪は北国の生活を豊かにしてくれる。児童たちはレジャーやスポーツを通して雪に親しみ、利雪という考え方は生活や産業、地域おこしに生かされている。ほかの自然災害とは異なり、被害の防止とあわせて雪との共存を旨とする考え方にも触れさせたい学習内容である。